

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

Bulletin of the National Museum of Ethnology Vol. 17No. 2; Cover, Contents, and others

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009370

1992—17_卷2_号

国立民族学博物館 研究報告



チュワン族の年中行事に関する史的考察

—— 成立過程を中心に —— 塚田誠之

基诺族的刀耕火种

—— 兼与云南其它刀耕火种民族的比较 —— 尹绍亭

香港新界における宗族の発展と墓地風水

—— 族譜を通じた分析 —— 瀬川昌久

現代チベット語における動詞の分類 —— 高橋慶治

「国民的出稼ぎ現象」の社会・経済的影響

—— 北イエメンの20年 —— 佐藤 寛



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

17 卷 2 号

1992 年

目 次

チュワン族の年中行事に関する史的考察 ——成立過程を中心に——	塚田誠之	169
基诺族的刀耕火种 ——兼与云南其它刀耕火种民族的比较——	尹 绍 亭	253
香港新界における宗族の発展と墓地風水 ——族譜を通じた分析——	瀬川昌久	305
現代チベット語における動詞の分類	高橋慶治	343
「国民的出稼ぎ現象」の社会・経済的影響 ——北イエメンの20年——	佐藤 寛	369
彙 報		409
国立民族学博物館研究報告寄稿要項		414
国立民族学博物館研究報告執筆要領		415

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 17 No. 2

1992

TSUKADA, Shigeyuki	Historical Study of the Seasonal Ceremonies of Zhuang, China: Focusing on the Process of Formation	169
YIN, Shaoting	Swidden Cultivation of the Jinuo and a Comparison with Swiddening Practiced by Other Ethnic Groups in Yunnan	253
SEGAWA, Masahisa	Development of Chinese Lineages and the <i>Feng-shui</i> of Their Ancestral Tombs in the New Territories of Hong Kong: A Study Based on the Analysis of Genealogical Books	305
TAKAHASHI, Yoshiharu	A Classification of Verbs in Modern Tibetan	343
SATO, K. Hiroshi	Labor Migration as a "Whole Nation Movement" and Its Impact on Society and Economy: Yemen's Experience from 1970 to 1990.....	369

彙 報

(平成4年4月～
平成4年6月)

人事異動
(行政職)

(昇 任)

4月1日 管理部施設課長 芋野 昭作
(滋賀医科大学業務部施設課課
長補佐)
管理部庶務課課長補佐
疋田 勇
(大阪大学庶務部庶務課総務掛
長)

(配置換)

4月1日 管理部長 内藤 貞
(茨城大学庶務部長)
情報システム課長 故選 義浩
(佐賀医科大学教務部図書課
長)
岡山大学庶務部長 田中 武雄
(管理部長)
千葉大学施設部建築課長
堀井 克彦
(管理部施設課長)
筑波大学図書部情報サービス課
長 熊谷 俊夫
(情報管理施設情報システム課
長)
大阪大学医学部附属病院事務部
医事課課長補佐 村松 幹夫
(管理部庶務課課長補佐)

(教育職)

(名誉教授称号授与)

4月1日 杉本 尚次

(転 任)

4月1日 東京都立大学助教授
大塚 和夫
(第三研究部助教授)

(配置換)

第一研究部教授 熊倉 功夫
(筑波大学教授)
第二研究部教授 立川 武藏
(名古屋大学教授)
第三研究部助手 栗本 英世
(東京外国語大学助手)
第三研究部教授 杉村 棟
(第二研究部教授)
第一研究部教授 藤井 知昭
(第五研究部教授)

(併任解除)

第一研究部教授 竹村 卓二
(第一研究部長)

(併 任)

第三研究部長 杉村 棟
(第三研究部教授)
第一研究部長 藤井 知昭
(第一研究部教授)
第五研究部長 杉田 繁治
(第五研究部教授)

(客員研究部門)

4月1日 第五研究部教授 大貫 良夫
(東京大学教授)
第一研究部助教授 佐々木史郎
(大阪大学助教授)

(外国人客員研究部門)

4月1日 第五研究部教授
VAN BREMEN, Jan Gerhard
(オランダ・ライデン大学教授)

評議員

氏 名	任 期
石川 榮吉	(2. 9.15～4. 9.14)
伊地智善継	(2. 9.15～4. 9.14)
上山 春平	(2. 9.15～4. 9.14)
梅原 猛	(2. 9.15～4. 9.14)
大西 昭男	(2. 9.15～4. 9.14)

北村 甫 (2. 9.15~4. 9.14)
 木田 宏 (2. 9.15~4. 9.14)
 熊谷 信昭 (2. 9.15~4. 9.14)
 祖父江孝男 (2. 9.15~4. 9.14)
 土田 直鎮 (2. 9.15~4. 9.14)
 坪井 清足 (2. 9.15~4. 9.14)
 直江 広治 (2. 9.15~4. 9.14)
 中尾 佐助 (2. 9.15~4. 9.14)
 中根 千枝 (2. 9.15~4. 9.14)
 西島 安則 (2. 9.15~4. 9.14)
 樋口 敬二 (2. 9.15~4. 9.14)
 宮田 満雄 (2. 9.15~4. 9.14)
 向坊 隆 (2. 9.15~4. 9.14)
 村山 松雄 (2. 9.15~4. 9.14)

運営協議員

綾部 恒雄 (2. 9.15~4. 9.14)
 石井 米雄 (4. 5.16~6. 5.15)
 伊藤 幹治 (2. 9.15~4. 9.14)
 大貫 良夫 (2. 9.15~4. 9.14)
 口羽 益生 (2. 9.15~4. 9.14)
 谷 泰 (4. 4. 1~6. 3.31)
 長島 信弘 (2. 9.15~4. 9.14)
 原 ひろ子 (4. 4. 1~6. 3.31)
 松園万亀雄 (2. 9.15~4. 9.14)
 山口 昌男 (2. 9.15~4. 9.14)
 米山 俊直 (2. 9.15~4. 9.14)
 石毛 直道 (3. 4. 1~5. 3.31)
 片倉 素子 (3. 4. 1~5. 3.31)
 黒田 悦子 (3. 3.25~4. 9.14)
 崎山 理 (4. 4. 1~6. 3.31)
 佐々木高明 (2. 9.15~4. 9.14)
 杉田 繁治 (4. 4. 1~5. 3.31)
 杉村 棟 (2. 9.15~4. 9.14)
 竹村 卓二 (3. 4. 1~5. 3.31)
 友枝 啓泰 (2. 9.15~4. 9.14)
 藤井 知昭 (2. 9.15~4. 9.14)

懇話会委員

栗津 潔 (4. 7. 1~6. 6.30)
 勝井 三雄 (4. 7. 1~6. 6.30)
 川添 登 (4. 7. 1~6. 6.30)

黒川 紀章 (4. 7. 1~6. 6.30)
 小林 公平 (4. 7. 1~6. 6.30)
 小林庄一郎 (4. 7. 1~6. 6.30)
 小松 左京 (4. 7. 1~6. 6.30)
 津田 和明 (4. 7. 1~6. 6.30)
 中塚 昌胤 (4. 7. 1~6. 6.30)
 伴 恭二 (3. 7. 1~5. 6.30)
 堀切 民喜 (4. 7. 1~6. 6.30)
 山下 俊彦 (4. 7. 1~6. 6.30)
 山田 稔 (4. 7. 1~6. 6.30)
 山本 信孝 (4. 7. 1~6. 6.30)
 湯浅 毅子 (4. 7. 1~6. 6.30)

情報システム運営委員

伊東 太作 (4. 7. 1~6. 6.30)
 井上 如 (3. 4. 1~5. 3.31)
 及川 昭文 (4. 7. 1~6. 6.30)
 大林 太良 (4. 7. 1~6. 6.30)
 国井 利泰 (4. 7. 1~6. 6.30)
 柴田 正美 (3.11.16~5.11.15)
 辻 三郎 (3. 4. 1~5. 3.31)
 久保 正敏 (3. 4. 1~5. 3.31)
 長尾 眞 (3. 4. 1~5. 3.31)
 中野 照海 (2.10. 1~4. 9.30)
 中山 和彦 (2.10. 1~4. 9.30)
 八村廣三郎 (2.10. 1~4. 9.30)
 星 仰 (3.11.16~5.11.15)
 松村多美子 (4. 7. 1~6. 6.30)
 吉田 将 (3. 4. 1~5. 3.31)
 佐々木高明 (3. 4. 1~5. 3.31)
 石毛 直道 (3. 4. 1~5. 3.31)
 松澤 員子 (3. 4. 1~5. 3.31)
 藤井 知昭 (3. 4. 1~5. 3.31)
 栗田 靖之 (3. 4. 1~5. 3.31)
 小山 修三 (3. 4. 1~5. 3.31)
 杉田 繁治 (3. 4. 1~5. 3.31)
 藤井 龍彦 (4. 7. 1~6. 6.30)
 松原 正毅 (3. 4. 1~5. 3.31)
 長野 泰彦 (3. 4. 1~5. 3.31)
 内藤 貞 (3. 4. 1~5. 3.31)

彙 報

国内資料調査委員

石塚 尊俊 (3. 4. 1~5. 3.31)
 泉 房子 (3. 4. 1~5. 3.31)
 犬塚 幹士 (3. 4. 1~5. 3.31)
 今村 充夫 (3. 4. 1~5. 3.31)
 大村 和男 (3. 4. 1~5. 3.31)
 勝部 正郊 (3. 4. 1~5. 3.31)
 萱野 茂 (3. 4. 1~5. 3.31)
 神崎 宣武 (3. 4. 1~5. 3.31)
 木崎 和廣 (3. 4. 1~5. 3.31)
 岸田 定雄 (3. 4. 1~5. 3.31)
 木下 尚子 (3. 4. 1~5. 3.31)
 倉田 亨 (3. 4. 1~5. 3.31)
 小泊 立矢 (3. 4. 1~5. 3.31)
 坂本 育男 (3. 4. 1~5. 3.31)
 坂本 正夫 (3. 4. 1~5. 3.31)
 佐野 賢司 (3. 4. 1~5. 3.31)
 澤 四郎 (3. 4. 1~5. 3.31)
 篠原 徹 (3. 4. 1~5. 3.31)
 下野 敏見 (3. 4. 1~5. 3.31)
 鈴木 尚夫 (3. 4. 1~5. 3.31)
 高橋 克夫 (3. 4. 1~5. 3.31)
 立平 進 (3. 4. 1~5. 3.31)
 田中忠三郎 (3. 4. 1~5. 3.31)
 鶴藤 鹿忠 (3. 4. 1~5. 3.31)
 都丸九一 (3. 4. 1~5. 3.31)
 名久井文明 (3. 4. 1~5. 3.31)
 西村 綏子 (3. 4. 1~5. 3.31)
 野口 光敏 (3. 4. 1~5. 3.31)
 橋本 鉄男 (3. 4. 1~5. 3.31)
 藤本 英夫 (3. 4. 1~5. 3.31)
 松下 亘 (3. 4. 1~5. 3.31)
 山口 賢俊 (3. 4. 1~5. 3.31)
 山路 興造 (3. 4. 1~5. 3.31)
 和田 正洲 (3. 4. 1~5. 3.31)

館内各種委員会

○国内資料調査委員会委員

佐々木高明 大丸 弘 小山 修三
 大塚 和義 松山 利夫 中牧 弘允
 秋道 智彌 櫻井 哲男 近藤 雅樹
 吉田 憲司 佐藤 浩司 谷本 滋

若月 修 五十嵐哲郎 故選 義浩

○標本資料委員会委員

石毛 直道 佐々木高明 大塚 和義
 中牧 弘允 吉田 集而 宮本 勝
 大丸 弘 南 真木人 藤井 龍彦
 八杉 佳穂 森田 恒之 吉本 忍
 谷本 滋 若月 修 故選 義浩

○映像・音響資料委員会委員

杉村 棟 佐々木高明 松原 正毅
 田邊 繁治 庄司 博史 石森 秀三
 吉田 憲司 大森 康宏 櫻井 哲男
 谷本 滋 五十嵐哲郎 故選 義浩

○ビデオテープ委員会委員

杉田 繁治 佐々木高明 重松真由美
 林 行夫 端 信行 石森 秀三
 大森 康宏 山本 泰則 小島 栄基
 谷本 滋 五十嵐哲郎 故選 義浩

○図書委員会委員

杉村 棟 佐々木高明 竹村 卓二
 熊倉 功夫 立川 武蔵 塚田 誠之
 大丸 弘 栗本 英世 八杉 佳穂
 朝倉 敏夫 崎山 理 福川 圭子
 谷本 滋 五十嵐哲郎 故選 義浩

○情報化委員会委員

杉田 繁治 佐々木高明 松原 正毅
 松澤 員子 栗田 靖之 片倉 素子
 江口 一久 庄司 博史 朝倉 敏夫
 佐藤 浩司 大森 康宏 山本 泰則
 内藤 貞 谷本 滋 若月 修
 五十嵐哲郎 故選 義浩

○HRAF 委員会委員

佐々木高明 松澤 員子 秋道 智彌
 栗田 靖之 福川 圭子 山本 泰則
 谷本 滋 五十嵐哲郎

○防災対策委員会委員

佐々木高明 藤井 知昭 石毛 直道
 杉村 棟 友枝 啓泰 杉田 繁治
 内藤 貞 小島 栄基 岩本 義男
 谷本 滋 芋野 昭作 若月 修
 五十嵐哲郎 故選 義浩

○展示委員会委員

石毛 直道 佐々木高明 大塚 和義
 松山 利夫 重松真由美 片倉 素子
 立川 武蔵 小川 了 端 信行
 小山 修三 山本 紀夫 森田 恒之
 吉本 忍 内藤 貞 小島 栄基
 岩本 義男 谷本 滋 若月 修

○広報・事業委員会委員

藤井 知昭 秋道 智彌 近藤 雅樹
 田村 克己 林 行夫 野村 雅一
 栗本 英世 小山 修三 吉田 憲司
 森田 恒之 泉 幽香 内藤 貞
 小島 栄基 岩本 義男 谷本 滋

若月 修 故選 義浩

○出版委員会委員

友枝 啓泰 松澤 員子 周 達生
 清水 昭俊 近藤 雅樹 吉田 集而
 宮本 勝 田村 克己 塚田 誠之
 和田 正平 江口 一久 福井 勝義
 野村 雅一 黒田 悦子 山本 紀夫
 須藤 健一 崎山 理 長野 泰彦
 泉 幽香 岩本 義男

○大学院委員会委員

藤井 知昭 片倉 素子 田村 克己
 和田 正平 黒田 悦子 崎山 理
 内藤 貞 岩本 義男

○施設整備委員会委員

友枝 啓泰 佐々木高明 小長谷有紀
 田邊 繁治 福井 勝義 佐藤 浩司
 櫻井 哲男 内藤 貞 谷本 滋
 芋野 昭作 若月 修

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官職	出発	帰国	行先
藤井 知昭	教授 (第一研究部)	3. 4. 1	3. 4. 6	ラオス
松澤 員子	教授 (第一研究部)	3. 4. 1	3. 4. 9	アメリカ合衆国
栗本 英世	助手 (第三研究部)	3. 4.10	3. 4.16	連合王国
吉田 集而	助教授 (第二研究部)	3. 4.10	3. 4.28	ラオス
吉本 忍	助教授 (第五研究部)	3. 4.10	3. 4.28	ラオス
田村 克己	助教授 (第二研究部)	3. 4.20	3. 5.19	シンガポール
吉田 憲司	助手 (第四研究部)	3. 4.21	3. 4.27	アメリカ合衆国
櫻井 哲男	助教授 (第五研究部)	3. 4.27	3. 5. 2	大韓民国
田邊 繁治	助教授 (第二研究部)	3. 5. 7	3. 6. 6	タイ
片倉 素子	教授 (第二研究部)	3. 5. 1	3. 5.20	アルジェリア
石毛 直道	教授 (第二研究部)	3. 5.23	3. 5.30	大韓民国
江口 一久	助教授 (第三研究部)	3. 6. 1	3. 6.25	中華人民共和国, 香港
吉本 忍	助教授 (第五研究部)	3. 6. 1	3. 6.23	シンガポール, インドネシア
周 達生	教授 (第一研究部)	3. 6. 1	3. 6.30	中華人民共和国
栗田 靖之	教授 (第二研究部)	3. 6. 6	3. 6.15	ブータン
森田 恒之	教授 (第五研究部)	3. 6.14	3. 6.23	ラオス, タイ
熊倉 功夫	教授 (第一研究部)	3. 6.25	3. 6.29	大韓民国

来館者抄

- 4月7日 KRAATZ, Martin (ドイツ, フィリップ大学宗教文化研究所長)
- 4月14日 中国文学芸術界聯合会代表团一行 団長 李瑛 (中国, 中国文学芸術界聯合会執行副主席, 中国作家協会主席団委員, 詩人), 王偉華 (中国, 中央宣伝部幹部局副局長), 李振玉 (中国, 中国文学芸術界聯合会党組メンバー, 中国戯劇家協会会員, 演劇評論家), 陳章武 (中国, 福建省文学芸術界聯合会書記処書記, 福建省作家協会理事, エッセイスト), 王金星 (中国, 湖南省美術家協会副主席, 秘書長, 画家)
- BEAN, SUSAN S. (アメリカ合衆国, セイラム・ピーボディー博物館主任学芸員)
- 4月30日 中国貴州省建設技術視察訪日団一行
- 5月19日 HOUTVEN, G. Van (ベルギー, Director, Department of Social Education and Public Library), ROELANDTS, G. (ベルギー, Director, Public Library Department), CATRYSSSE, B. (ベルギー, フランドル政府代表部在大阪)
- 5月21日 中国映画人代表团一行 団長 康慶雲 (中国, 中国電影出版社社長, 中国電影基金会秘書長), 丁蔭楠 (中国, 珠江電影制片廠監督), 王鉄成 (中国, 中国児童芸術劇院俳優), 張兆竜 (中国, 『中国電影年鑑』編集長), 王黎傑 (中国, 中国電影家協会対外連絡部幹部)
- 5月28日 ISMAGILIVA, Roza (ロシア, ロシア科学アカデミーアフリカ研究所長)
- 6月1日 中国新疆科学探検協会理事一行 呂銘 (中国, 新疆科学探検協会理事), 楊林 (中国, 新疆科学探検協会外联部主任), 楊新航 (中国, 新疆科学探検協会職員), 羅曉虎 (中国, 中国国際体育旅游公司, 探検部副經理)
- ツェーリン・アヨージュ (モンゴル, モンゴル国立歴史博物館民族部門部長)
- 6月8日 浅尾新一郎 (国際交流基金理事長) 夫妻
- 6月10日 FITZHUGH, William W. (アメリカ合衆国, スミソニアン自然史博物館学芸員)
- 6月18日 鄭澤才 (中国, 広東省文化庁庁長), 吳創成 (中国, 広東省文化庁対外文化処副科長)
- 6月26日 JAGUN, Joseph Omeiza (ナイジェリア, 国家芸術・文化評議会副局長)
- 6月30日 韓国比較民俗学会一行 李相日 (大韓民国, 韓国成均館大学教授), 尹光鳳 (大韓民国, 韓国大田大学教授), 林在海 (大韓民国, 韓国安東大学教授), 崔來沃 (大韓民国, 韓国漢陽大学教授), 朴鎮泰 (大韓民国, 韓国大邱大学教授) 他25名

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当たっては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1

国立民族学博物館内

国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]

[Leach 1961: 123]

[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]

9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。

- (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
- (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。

欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13 (4): 311-330。

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14 (4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse. In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language, The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

1966 『文明をもった生物』日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

1974 『シャーマニズム——古代のエクスタシー技術——』堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 17卷2号

〔監 修〕

梅 棹 忠 夫

〔編集委員長〕

友 枝 啓 泰

〔編集委員〕

江 口 一 久

崎 山 理 俊

清 水 昭 俊

須 藤 健 一

田 村 克 己

長 野 泰 彦

野 村 雅 一

福 井 勝 義

宮 本 勝 勝

吉 田 集 而

平成4年12月15日 発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 17卷2号

編集・発行 国立民族学博物館
〒565 吹田市千里万博公園10-1
TEL 06(876)2151(代表)

印 刷 中西印刷株式会社
〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075(441)3155(代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.17 no.2
1992

- TSUKADA, Shigeyuki Historical Study of the Seasonal Ceremonies of
Zhuang, China: Focusing on the Process of For-
mation of Ceremonies
- YIN, Shaoting Swidden Cultivation of the Jinuo and a Compari-
son with Swiddening Practiced by Other Ethnic
Groups in Yunnan
- SEGAWA, Masahisa Development of Chinese Lineages and the
Feng-shui of Their Ancestral Tombs in the New
Territories of Hong Kong: A Study Based on the
Analysis of Genealogical Books
- TAKAHASHI, Yoshiharu A Classification of Verbs in Modern Tibetan
- SATO, K. Hiroshi Labor Migration as a "Whole Nation Movement"
and Its Impact on Society and Economy: Yemen's
Experience from 1970 to 1990



National Museum
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X